

北朝鮮による拉致被害者家族連絡会

代表 横田 拓也 氏 による

令和四年度第2回国際理解教育講座開催！



ない横田めぐみさんの拉致事件を題材にしたアニメ「めぐみ」を視聴し、拉致事件について学習。その後、横田拓也氏の講演を拝聴し、我が国の主権及び国民の生命と安全に関わる重大な国際・人権問題である拉致問題について認識を深め、この問題を自分事として捉え、自分たちに何ができるか、何をすべきか考えた。

【生徒による感想】

◎拉致問題はニュースなどで聞いたことはあったが、本当に起こっている恐ろしい事件であるということや改めて感じました。思い出して話すのも辛い事だと思いますが、講演をしていただいて拉致問題のことを考えることができました。

◎当時の描写や心情がとても伝わってきました。地図で日本のどこで起こった事なのかが分かりやすかったです。横田

さんがおっしゃるように、もし自分や自分の身の回りで起こったらどう思うかを考えるのが大切だと思います。他人事だと思わず、被害にあった方々のことを忘れないようにしたいと思います。

◎アニメ「めぐみ」を見た後に講演をきくことができたので、あの話はただの映画ではなく、実際に起きたとても悲惨な事件なのだと思え、現実をつきつけられました。拉致問題のことを知らない人が増えていく世の中で、私たちに出来ることは拉致問題について知り、考えてみることだと思います。そしてこのことを後世や周りの人に伝え、事件の記憶を受け継いでいくことだと思います。

◎北朝鮮による拉致はニュースで見ても少し知っていましたが、政府認定・非認定含めて何百・何千人もの人が被害にあっている、その被害の大きさを初めて知りました。また、実際に脱北した人の話もしてくれて、拉致問題について詳しく知ることができました。

拉致された人だけでなく、その家族も今も苦しんでいることを思うと、憤りを感じ

じ、拉致問題は、私の生まれる前の昔の話ではなく、現在にもかわる日本の問題であるということ



がよく分かりました。政府には、一刻も早く拉致された方々が全員帰国できるようにすること、日本の海岸線の警備を強化し、もう同じように被害にあらう人を増やさないようにする取り組みを求めたいと思いました。そのためにも、拓也さんがおっしゃっていたように、私たち学生が拉致問題について知り、発信していくことが重要だと思います。北朝鮮による拉致問題について詳しく知れた上に、実際に拉致被害者のご家族のお話をうかがえて、とても貴重な講演であったと思いました。

◎北朝鮮による拉致問題は決して許されないことであり、これからも拉致被害者が日本に戻ってこられるように積極的に活動を行っていくべきだと思います。政府だけに限らず、私たちもこの拉致問題について関心を持ち、伝えていくことがとても大切だと思います。

三月十七日(金)、御坊市民文化会館大ホールにて、日高高校第2回国際理解教育講座が開催された。今回は、北朝鮮による拉致被害者・横田めぐみさんの弟で、同家族連絡会代表の横田拓也氏を講師にお迎えし、「北朝鮮よ、姉めぐみを帰せー!」と題し、「」講演いただいた。

講演に先立ち、十三歳の時、部活動の帰りに北朝鮮に拉致され、四十五年たった今もまだ帰国が叶って



◎拓也さんが、親の前でめぐみさんの話を切り出しているのだろうかとか幼いながら思っていたという話や、お父さんがお風呂で声を殺しながら泣いていたという話は特に、生々しい状況が目に見えかぶように伝わり、とても胸が苦しくなりました。めぐみさん本人が苦しむことはもちろん、その家族の辛さは相当なものだということを拓也さんから直接話を聞いて改めて痛く感じました。拓也さんが繰り返しおっしゃっていたように、拉致問題を他人事に受け止めず、自分のことだと考えて生きていくことが大切だと思いました。そして、ささいなことでも普段から拉致問題に触れ、後世も忘れられないように何か

の形で伝え続ける力に少しでもなりたいたいと思います。

◎拉致問題についての怖さを改めて知ることができ、実際に自分に置き換えて考えてみると、言葉では表すことのできない気持ちになりました。めぐみさんは一体どんな気持ちだったのか、十三歳という若さで拉致されたことを考えると、とても苦しい気持ちになりました。今回の講演を通して、当たり前なんてないのだと感じました。「明日が来るのが当たり前ではない」このことをこれからも胸に刻んで、一日一日を大切に過ごしていきたいと思いました。

◎講演では、さらに拉致問題について詳細を聞かせてくださって、本当にそんなことがあるのかというような事実を知ることができてよかったです。また、拉致被害者が日本以外の国にもいること、未だ分かっていないだけで拉致被害かもしれないという方が大勢いることに驚きました。どうして北朝鮮はそんなことをするのだろうかという怒りがこみ上げてきました。拉致被害者とそのご家族が一日でも早く再会ができるように、私自身も何か力になれるようできるところをしていきたいと思います。

◎横田さんたちがどれだけ辛くて、めぐみさんのために何をしてきたのか

わかった。政治家の方に会ったり、各国に行ったりとたくさんの活動をされていることを知った。一刻も早く拉致被害者の方が戻ってきてほしい。政府が国をあげてこの問題に取り組んでほしいと思った。



◎横田めぐみさんの家族であるからこそ感じることや、実際の事件の詳細を知ることができた。実際に体験したからこそその言葉の重みを感じた。横田めぐみさんの事件は、1977年のもので約四十五年も前の出来事であるが、この事件を絶対に風化させたいけないというのを感じた。

◎めぐみさんは本当に怖かっただろうし、そのあとの家族の皆さんも想像もできないくらい心が痛かっただろうと思います。人生をかけてめぐみさんを取り戻そうと尽力していることがすごく伝わってきました。また、亡くなってしまっためぐみさんのお父さんのことを

考えると、とても悲しい気持ちになりました。講演を聞いて、この事件は決して他人事ではなく、自分や自分の大切な人にも起こりうるのだと再認識しました。何か出来ることはないか考えて、他の人にもこの事件を伝えていきたいと思っています。

◎ニュースで見るといろいろの内容しか知らなかったけれど、今回の講演の中で事件当初、日本政府はすぐ動いてくれなかったということを知り、驚きました。日本と北朝鮮の関係がどうかではなく、大事な家族が拉致されたのに政府がすぐ対応しなかったことにショックでした。対応が早かったら、今頃めぐみさんは日本で幸せに暮らしていたにちがいないりません。一刻も早く見つかり、帰ってきてほしいです。拉致被害者の皆さんに幸せになってほしいです。署名活動があるなら参加したいです。

◎他にも北朝鮮に拉致された人が多くいるという事実を風化させないようにするのは、私たちの使命だと思った。

